

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかわることができる人を育てます。

★多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と教育相談により「4つの力」を育みます。

1. **学び続ける力**：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。
2. **他者と関わり生きていく力**：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。
3. **課題を乗り越える力**：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。
4. **自分の将来を考える力**：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」を育む

- (1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。
- (2) すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。
- (3) 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。

※学校教育自己診断における生徒の学習満足度 78%以上 (R2:77.4% R3:81.6%)

2 「他者と関わり生きていく力」を育む

- (1) すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。
- (2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。
- (3) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。
- (4) ボランティア活動、地域連携などの取組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。

※学校教育自己診断における生徒・保護者の教育相談満足度 78%以上 (R2:75.2% R3:72.9%)

3 「課題を乗り越える力」を育む

- (1) すべての教育活動において、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。
- (2) 生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。

4 「自分の将来を考える力」を育む

- (1) インターンシップや職場見学を通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。
- (2) 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取組みをすすめる。

※学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 70%以上 (R2:62.3% R3:89.6%)

5 信頼される学校づくり

- (1) 家庭や地域との連携強化により、多様な生徒を支える地域に根ざした多文化共生をすすめる、すべての生徒一人ひとりを大切に育てていく。
- (2) 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組みをすすめる。
- (3) 学校経営推進費 (R4)：「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための環境整備計画をとおして多文化共生の学校づくりをすすめる。

※学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」 76%以上 (R4より新規) →76.7% (R4)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○生徒の結果は、21項目中19項目で肯定的回答が80%を超えた。学校生活については「入学してよかった」95.7%「学校へ行くのが楽しい」82.6%。授業関係では、「授業はわかりやすい、内容に満足」89.1%、「教え方に工夫」97.8%、「学習での努力を認めてくれる」95.7%、「評価の仕方や基準を事前に示されている」93.5%、「学習評価について納得」93.5%であった。すべての授業で1人1台端末の有効活用と学習支援クラウドサービスの活用で多様な授業展開と深い学びへの取組みが進んだ結果と考える。</p> <p>今年度は初めての卒業生を出し、卒業予定生徒にはきめ細やかな進路プログラムを実施した結果「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答が97.8%88%(+9)であった。「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的回答が89.1%91.1%(-2)となったが生徒のニーズに合ったよりきめ細やかな情報提供を進めていきたい。</p> <p>○保護者の結果では、16項目中12項目で肯定的回答が80%を超えており「入学させてよかった」96.2%、「懇談や通知で学力や到達度等分かりやすい伝えていく」96.2%、「生徒指導方針に共感できる」92.5%、「命の大切さやルールを守る態度」92.4%、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」86.8%、「家庭への</p>	<p>【第1回】令和4年7月29日開催 ○会長・副会長の選出 ○大阪わかば高校の概要について ○令和4年度学校経営計画について ○委員からの意見・質問 ・4月より大阪わかば高校の教員との交流機会があり、各教員の生徒の実態把握の高さに驚いた。他者に勧めることのできる高校と確信した。また、他者から信頼される生徒の姿を見て、大阪わかば高校の雰囲気を感じ取ることができた。・大阪わかば高校の多文化共生は全国的に注目されており協力していきたい。・大阪わかば高校へ進学を希望する生徒が本校(中学校)にもいる。大阪わかば高校があることで保護者が進路に対して前向きになっているように感じる。・多文化共生の視点で日本語を母語とする生徒がどのように学び、何を感じるかに注目していきたい。・勝山高校を引き継いだ大阪わかば高校に期待しているが、まだ、大阪わかば高校の知名度が低いように思う。中学校に大阪わかば高校を知ってほしい。・多文化共生のモデル校として頑張ってもらいたい。 ・高校を中退した若者がキャリア形成に苦戦する現状がある中、大阪わかば高校があることはとても重要なことと感じた。今後も行政と連携してほしい。・中学校も大阪わかば高校と同様、日本語指導を必要とする生徒が増加傾向にある。大阪わかば高校のように日本語指導を必要とする生徒を受け入れる高校はありがたい。また、朝起きる事が苦手な生徒にも選択肢となるなど、生徒の多様性を認める学校。そのために大変さもあると思うが、頑張ってもらいたい。</p> <p>【第2回】令和4年12月16日開催 ○大阪わかば高等学校スクール・ミッション(案)について ○令和4年度学校経営計画に基づく本年度の取組みの進捗 ○令和4年度学校教育自己診断について ○委員からの意見・質問 ・服装や頭髪の規程はあるのか。→特にないが、学校生活にふさわしく他の生徒に迷惑が及ぶと考えられるものは指導を行っている。・外国にルーツを持つ生徒が生野区長に提言をし、絵本の読み聞かせのイベントに参加して</p>

府立大阪わかば高等学校

<p>連絡や意思疎通」86.8%と高い肯定的回答となった。</p> <p>今年度初めて卒業生をだす進路指導においては、「進路や職業について適切な指導」84.9% (+15.9) と上昇した。保護者からのコメントより「中学時は不登校だったが今は休まず登校できている」「担任の先生によく気にかけてもらって感謝」等いただいている。</p> <p>課題は「授業参観や学校行事の参加」41.5%、「HP の閲覧」47.2%と学校からの情報発信をより進めていきたい。</p> <p>○教職員の結果では、「人権指導にもとづいた生徒指導」96.9% (内よくあてはまる 59.4%)、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」90.6% (内よくあてはまる 56.3%)、「いじめが起こった際の対応」90.6%、教育活動について日常的に話し合っている」93.8%など 10 項中9項目で 80%を超えた。課題は生徒・保護者・地域への情報発信が 78.1%と一層充実させていきたい。</p>	<p>くれて感謝している。これからも区役所・地域と連携を行い、大阪わかば高校を支援していきたい。</p> <p>・わかば高校の授業を見学した文部科学省調査官から「今年の春に入学した生徒がディベートしたことに驚いた。また、日本語だけではなく、母語を使った授業を行っていることにとっても感心した」と非常に高評価をいただいた。・外国にルーツを持つ生徒の授業は、生徒が生き生きできるものだと感じる。日本語担当の先生だけではなく、他の教科の先生も様々な工夫を凝らしていると思う。・スクールミッションをつくる際に、目標が不明確にならないよう曖昧な部分を整理して、全教員全員で目標達成に向けて取り組めるようにしてほしい。・外国にルーツを持つ生徒は学校生活で大変な部分が多いと思うが、学ぶ気持ちが強ければ学ぶことができることに感心している。・日本語の力を伸ばすことができるシステムを確立されていることに感心を持った子どもたちには世界を牽引する人材になってほしい。・中学校においても、言語に関する課題は年々多くなっていると感じる。「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」の枠をしっかりと確保してほしい。</p> <p>【第3回】令和5年3月2日開催。</p> <p>○学校教育自己診断アンケート結果・集計結果について ○授業アンケートについて</p> <p>OR4年度学校経営計画及び学校評価について OR5年度学校経営計画及び学校評価(案)について</p> <p>○委員からの意見・質問</p> <p>・率直に素晴らしい学校だと思う。初めての卒業予定生では進学を希望する生徒が多く、今後進学する生徒が増えるのではないだろうか。・勝山高校から大阪わかば高校に変わり、学校運営協議会に参加して、1年間大変勉強になった。初の卒業生を送り出すことになるが、これからも学校と地域との関わりを高めたい。・1年間わかば高校に関わり印象に残ったことは、教員の生徒に向き合う姿勢である。授業が少人数で教員の生徒に対する距離感も良く、日本語指導が必要な生徒も学べる環境が整っていると感じる。・アンケートの回答者数の母数が少ないことが課題と感じるが、回答の結果を見ると肯定的な回答が多く、教員の向き合う姿勢が表れていると思う。</p> <p>・さまざまな背景を持った生徒に対して望みがある学校だと感じる。地域として、これらの生徒が、働き生きていけるようなまちづくりを実現したい。そのために、学校と連携をより進めていきたい。・中学校でも外国にルーツを持つ生徒や不登校の生徒も増えている。その中で、わかば高校は大切な学校である。自由な中でも規律を守ることを大切にしていることが良いと感じる。</p> <p>○令和5年度「学校経営計画及び学校評価」の承認</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 「学び続ける力」の育成	<p>(1) 安心して学べる学習環境の整備</p> <p>(2) わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援</p> <p>(3) 教員の授業力向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切に授業環境を整える。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を積極的に活用し、わかりやすい授業づくりを推進する。 学習支援クラウドサービスを活用した学習活動を発展させる。 授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に3回、授業見学月間を設定し、授業見学シートを活用する。 授業見学月間ごとにテーマを決めて教科で工夫をする。 観点別学習状況評価の観点を持った授業研究をすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」70%をめざす。[67.7%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業などで視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」95%以上。[94.1%] 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」75%以上を維持。[79.4%] 「教え方に工夫をしている先生が多い」75%以上を維持。[82.4%] 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」80%以上を維持。[85.3%] 「学習の評価について納得できる」80%以上を維持。[85.3%] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学月間の授業見学回数を2回以上、授業見学月間以外も含め授業見学シートを3枚以上作成。 	<p>「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」91.3%であった。昨年度より大きく向上した。静かに学べる授業環境を整えるためのルール・マナーの指導を行ってきた。次年度もより集中して授業に参加できる授業環境を整える取り組みを継続したい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業などで視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」95.7%であった。1人1台端末の授業活用の広がりやプロジェクタ等の効果的な使用で分かりやすい授業につながっている。(◎) 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」89.1%であった。(◎) 「教え方に工夫をしている先生が多い」97.8%であった。(◎) <p>学習支援クラウドサービスをすべての授業で活用し、グループウェアの利用などそれぞれの教科でわかりやすく興味をもたせる工夫を行ってきた成果であると考え。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」95.7%であった。(◎) 「学習の評価について納得できる」93.5%であった。ルーブリック等で評価の基準をわかりやすく示した授業が増えてきた。(◎) 授業見学週間を年3回(6・10・1月)実施した。見学シートの作成は、平均して約2枚であった。シートとの交換により観点別学習評価の観点での授業研究がすすんだ。(△)
2 「他者と関わり生きていく力」の育	<p>(1) SC、SSW等の外部人材との連携による、きめ細かな教育相談体制および生徒指導</p> <p>(2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーの習得とSSTの活用</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を構築する。 生徒の状況をさまざまな角度から観察し、丁寧な指導と温かみのある声かけにより、問題事象の早期発見、早期対応を心がける。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会をつくりながら、SSTをすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度 75%以上。[72.9%] 生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 70%以上。[79.4%] 生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」80%以上を維持。[82.4%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度は 78.3%であった。外部人材との連携協力体制がより密になった。(○) 生徒向け学校教育自己診断の入学満足度は、95.7%であった。(◎) 生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」95.7%であった。(◎) 生徒の課題について中学校ははじめ関係機関との連携を迅速に行うとともに、生徒に寄り添った丁寧な指導を心がけてきた。 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」97.8%であった。(◎)

府立大阪わかば高等学校

成	<p>(3) お互いの個性の尊重</p> <p>(4) ボランティア活動、地域連携などの取組。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SST はその時間だけのものにならないよう、全教員が SST について理解を深める。 • 総合的な探究の時間と LHR の内容の整理、提案。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自他を大切にすることを育むために、3R を大切に取る取り組みを継続して行う。 • 人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 • 多文化共生やネットリテラシーに関して LHR 等で学ぶ機会や講演会を企画する。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 校内外美化活動はじめ地域におけるボランティア活動の企画を行う。 • 近隣保育園、支援学校との交流の継続。 	<p>80%以上を維持。[88.3%]</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」80%以上を維持。[86.8%] • 学校教育自己診断において「多文化共生について学ぶ機会がある」の項目設定。76%以上。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 活動の内容、回数、振り返りがどうであったか。 	<p>SST を通してより考える機会をつくることができた。アンケートの振り返りから、よりよいプログラムになるよう今後も充実させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「人権について学ぶ機会がある」95.7%であった。(◎) 外部講師を招いての人権講演会の実施や人権 HR を丁寧に行い生徒たちが考える機会をつくった。 • 「多文化共生について学ぶ機会がある」76.7%。日本語指導特別枠校として今年度初めて設定した。今後も取組を充実させたい。(◎) • 校内外の美化活動を実施できた。また地域の多文化共生の交流会にボランティアとして参加できた。(◎) • 昨年度に引き続き、学校周辺の清掃のクリーンアップや地域での多文化絵本読み聞かせの取組を実施した。本校の農地を利用した芋ほりなどで近隣保育園が来校した。(○)。
3 「課題を乗り越える力」の育成	<p>(1) すべての教育活動における SST の活用</p> <p>(2) 外部人材を活用した支援</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 総合的な探究の時間において計画的に SST を実施する。 • すべての教育活動における SST の活用のため、教職員が SST への理解をさらに深めるために、教員研修を実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CC と連携して生徒支援を行う。 • 外部機関との連携も積極的に行う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 総合的な探究の時間において計画的に SST が実施できたか。教育産業との連携により前期8回、後期8回。 • SST についての教員研修の振り返りがどうであったか。教員アンケート等により検証する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。定期的に修学支援委員会において検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 外部組織と連携して教材をより充実させ、年間16回の SST を計画どおり実施できた。(○) • SST について担当教員と担任等との打ち合わせを丁寧に行い、教員アンケート結果をフィードバックさせ SST がより充実した内容になるよう改善させたい。(○) • SC、SSW、CC との連携が機能し、ケース会議や生徒、保護者対応にも外部人材の協力・助言により生徒支援を継続して行えた。次年度もより組織的に機能するよう体制の構築を図りたい。(○)
4 「自分の将来を考える力」の育成	<p>(1) 将来を見すえた進路指導</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせた受講登録を通して将来について考える力をつける支援をする。 • 通信併修や技能審査・高認など外部単位の案内を丁寧に行う。 • キャリアパスポートの引継ぎ、作成・管理をすすめる。 • ガイダンス、講演、リモート見学会等、生徒一人ひとりが具体的な進路を見据えることができる取り組みを計画する。 <ul style="list-style-type: none"> • 外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取組をすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」80%以上を維持。[88%] • 生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」80%以上を維持。[91.1%] <ul style="list-style-type: none"> • 多様な生徒の状況、ニーズに合わせた、外部講師や地域人材などを活用した講演会や交流などの回数および内容。[5回] 	<ul style="list-style-type: none"> • 「将来の進路や生き方について考える機会がある」97.8%であった。(◎) 今年度初めての卒業生を出し、進路指導については、就職 12 名、大学 11 名、短大 1 名、専門学校等 12 名。 • 「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」89.1%であった。内容では昨年以上に丁寧な進路ガイダンスを行うことができた。(◎) • 学校設定科目「シナジー生野」や福祉関係の授業において外部講師を招いて授業や地域の施設への訪問等を 15 回以上実施できた。(◎)
5 信頼される学校づくり	<p>(1) 地域との連携、生徒一人ひとりを大切に育てる ア. 受験生・中学校・地域向け広報の充実 イ. 多様な生徒たちの活躍の場づくり・居場所づくり ウ. 日本語指導が必要な生徒に対する支援体制の構築</p> <p>(2) 学校における働き方改革の取組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア・HP では入試関係や連絡を掲載。ブログ、SNS は行事や学校生活について発信する。</p> <p>イ・生徒会活動を通じリーダーを育成し、生徒が主役の学校行事の企画をすすめる。</p> <p>ウ・wakaba カフェの継続と居場所となる図書館経営をすすめる。</p> <p>ウ・日本語指導が必要な生徒に対する母語指導の充実、学習保障、進路保障に向けての支援体制を整える。 (3年目の指標：中退率6%以下、自己実現達成度 80%以上、単位修得率 65%以上)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各種ソフトウェアやクラウドサービスを有効活用し、業務の効率化をはかる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内容、頻度、反応がどうであったか。 <ul style="list-style-type: none"> • 学校行事への参加率75%をめざす。[71.5%] • 生徒向け学校教育自己診断「行事は楽しく行えるよう工夫されている」80%以上をめざす。[79.4%] • 日本語指導が必要な生徒の入学満足度70%をめざす。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」84.9%であった。(○) • 学校行事への参加率75% (○) • 「行事は楽しく行えるよう工夫されている」95.7%であった。生徒会執行部が中心となり生徒が参加しやすい内容の企画を進めた。(◎) • 日本語指導が必要な生徒の入学満足度は95.5%であった。(◎) • 昨年度比 88.9%に減少した。(○)